

キリスト教古典叢書

諸原理について

(ペリ・アルコーン)

オリゲネス 著 小高 毅 訳



キリスト教で初めての組織神学書

ギリシア教父最大の聖書解釈者であり、教皇ベネディクト16世から「真の教師」と評された3世紀の神学者オリゲネスの主著。善なる神、理性的被造物である人間、世界についての哲学的な試論であり、キリスト教史上初めて体系的に論述された神学的著作として知られる本書は、後代の西洋思想に絶大な影響を与えた。

▶創文社版の訳文を全面改訂し、ラテン語訳からの翻訳に加えて新たにギリシア語断片の翻訳も併記した改訳決定版。同一主題を扱った小品『ヘラクレイデスとの対話』も収録。

《訳者紹介》小高 毅 (おだか・たけし) … フランシスコ会司祭。1942年生まれ。聖アントニオ神学院教授などを歴任。著書に『古代キリスト教思想家の世界』『人と思想 オリゲネス』『よくわかるカトリック』『霊性神学入門』ほか。訳書にオリゲネス『雅歌注解・講話』『ヨハネによる福音注解』『祈りについて・殉教の勧め』『ローマの信徒への手紙注解』、アンリ・ド・リュバク『カトリシズム』、Y. コンガール『わたしは聖霊を信じる』全3巻ほか。

A5判・上製・534頁・定価8,580円(本体7,800円+税)・ISBN 978-4-7642-1814-7 C0316